

修験道の聖なる道：高野山と熊野への巡礼

大阪の東にある紀伊半島の登山道を歩くと、森の中に螺貝が響く音が聞こえます。これは修験道として知られる宗教の修行者である山伏の音で、山を巡って巡礼の目的地まで旅するときにこれらの貝を吹きます。神道、仏教、山岳信仰を融合した修験道の重要な部分は、山道を巡る巡礼です。修験道の分野で重要な 2 つのルートは、高野山ルートと熊野ルートです。精神的な信者やカジュアルな登山者は、これらのルートを楽しむことができます。これらのルートは、壮大な山の景色を通り抜けます。

和歌山県の高野山は、日本で最も尊敬される宗教的人物の 1 人である仏教僧空海（弘法大師; 774-835）によって 819 年に設立された山頂の宗教的な隠れ家です。寺院、学び舎、奥の院の大きな墓地の複合体で、高野山は何世紀にもわたって精神的な浄化と修行の場所として役立ってきました。高野山（高野七口街道）に通じる 7 つの登山道がありますが、山岳修行の最も重要なものの 1 つは高野山町石道巡礼ルートです。9 世紀に設立され、高野山への最初のアクセスルートです。

ルートは九度山から奥の院まで約 24 km で、完了までに約 7 時間かかります。南海電鉄高野線の九度山駅から始まります。そこから北西に慈尊院へ。空海が母親のために記念館を建てた場所であり、国宝である未来の仏、弥勒菩薩の像があります。

慈尊院は伝統的なルートの始まりでもあり、すぐ南に曲がり山に登ります。石道は、道に沿って並ぶ 180 の石塔から名付けられました。鎌倉時代

（1185-1333）に建立されたこれらの塔は、五重塔を象徴しています。これは、歴史的な仏の遺物が収められた細長い容器です。次に、約 1700 年前に丹生都比売に捧げられた日本全国の約 180 の神社の主要な聖域として建てられた丹生都比売神社など、遊歩道は続いています。大門は、日本で二番目に大きい仁王像を備えた、複数階建ての 315 年前の建造物で、蓮の花の曼荼羅を表現するために設計された高野山の聖域の入り口を示しています。曼荼羅の中心にある高さ 50 メートルの塔である根本大塔は、門からわずか 500 メートルのところにあります。

もう一つの重要な修験道の巡礼は、熊野参詣道中辺路ルートです。紀伊半島の下部にある神聖な山々を通る熊野古道の小道の 1 つです。熊野古道は、神々の神聖な住居と熊野の三大神社、熊野本宮大社、熊野那智大社、熊野速玉大社に信者を連れてきます。この聖域は、山伏修験道の実践者が使用する熊野参詣道小辺路を介して高野山に、大峰奥掛道を介して吉野につながっています。これらのすべての領域は、2004 年に紀伊山地の聖地と巡礼ルートとしてユネスコ世界遺産に登録されました。熊野神社と修験道自体は、日本で深化した古代の自然崇拝である神道と、中国や韓国から輸入された仏教との融合を反映しています。神仏習合として知られるこの混合物は、修験道の蔵

王権現のように、神道の形をした仏教の仏の現れなど、崇拝の対象が特徴的です。

和歌山県南部を横切る中辺路ルートは、1日6時間から7時間で二日間にわたる38kmのトレッキングコースです。滝尻王子から山に登り、半島のほぼ中央にある熊野本宮大社に到着します。そこから、ルートの2つの支線が太平洋岸に向かって下降します。1つは熊野速玉大社、もう1つは熊野那智大社です。各神社には、壮大な自然環境と独特の最高の特徴があります。熊野本宮大社は日本最大の鳥居を通り、熊野那智大社は日本で最も高い滝である那智の滝のそばにあり、熊野速玉大社は樹齢800年の日本最古の針葉樹であるアジアヤマモモ（ナゲヤナギ）が生息しています。奈良県と和歌山県の修験道巡礼ルートは、旅行者に自然と精神の領域の両方を旅する機会を提供します。